



不満



川崎ゆきお

「一寸した不満は必要ですなあ」

「不満ですか。それはストレスになり、心身に悪いんじゃないですか」

「世の中に心身にいいものなど何もないでしょ。全て悪い。ただ、気にするか、しないかの違いでしょう」

「ほう」

「まあ、不満と感ずるかどうかはその人次第。ただ、不満がなければやる事がなくなったりしますよ。こちらの方が深刻だったりします」

「何を差しているのか、よく分かりませんが、軽い不満はいいのですね」

「他の人にとっては非常に重くて深刻な大不満かもしれませんが、そう感ずない人もいます。体感温度と同じです。温度差があります」

「不満だと、機嫌が悪くなるでしょ」

「ずっと機嫌のいい状態を考えてみて下さい。阿呆ですよ」

「ああ、それは」

「調子が悪いからいいときが良い。それと同じ理屈ですよ」

「考え方次第ですね」

「そういう自己啓発ものではありません。自己啓発をやるとすぐ不満を感ずたりするでしょ」

「あまり読んでませんが」

「誰かの説教でもよろしい」

「ああ、分かっていることをくどくどと言われると不満ですねえ」

「また非常に良い方法を聞いても、それが実行できないと、自己嫌悪になったりします。聞いていなければ、何ともない」

「それで、不満についてなのですが」

「この不満がリードなんです」

「リード」

「牽引ですなあ」

「不満を解消しようと動くわけですね」

「まあ、時間ものもあります。時が来れば、消えていく不満もあるでしょ。その間辛いですが、これは貯金です。長く我慢して貯めていたものを一気に吐き出せます。何もしなくてもね。時が

経てば解決する不満なら、従って動く必要はありません。逆に何かを企てると逆にもつれてしまい、時の経過では解決しなくなったり、あるいは長引きます」

「そんな例はあまり思い当たりませんが」

「気が付かないだけです。だから、その状態がよろしい」

「不満は悪いことじゃないのですね」

「不満足、不愉快、これは解消してしまうと、あと、何も残らなかつたりします」

「すっきりして、過ごしやすくなるのでは」

「不満があるときのほうがやる気が起きたりします。解消したいですからね。解決してからは、やりがいが消えたようになるかもしれません。通りがよくなったのは良いのですが、そこを歩いていても、走っていても、何か気力、手応え、歯応えが弱まっているはずですよ」

「それも、あまり思い当たりませんが」

「気が付かないだけです。それでよろしい」

「はい」

「不満が解決、解消したときの気持ちよさを味わうために、不満の原因を作っているようなところもありますよ」

「そんなことはないかと」

「気が付かないだけです。それでよろしい」

「はい」

「ああ、助かったという思い。これが良いんでしょうねえ」

「あ、はい」

「助かっていなければ死んでいる」

「はい」

「そういうことです」

「あまり思い当たりませんが」

「気が付かないだけです。それでよろしい」

「はい」

